

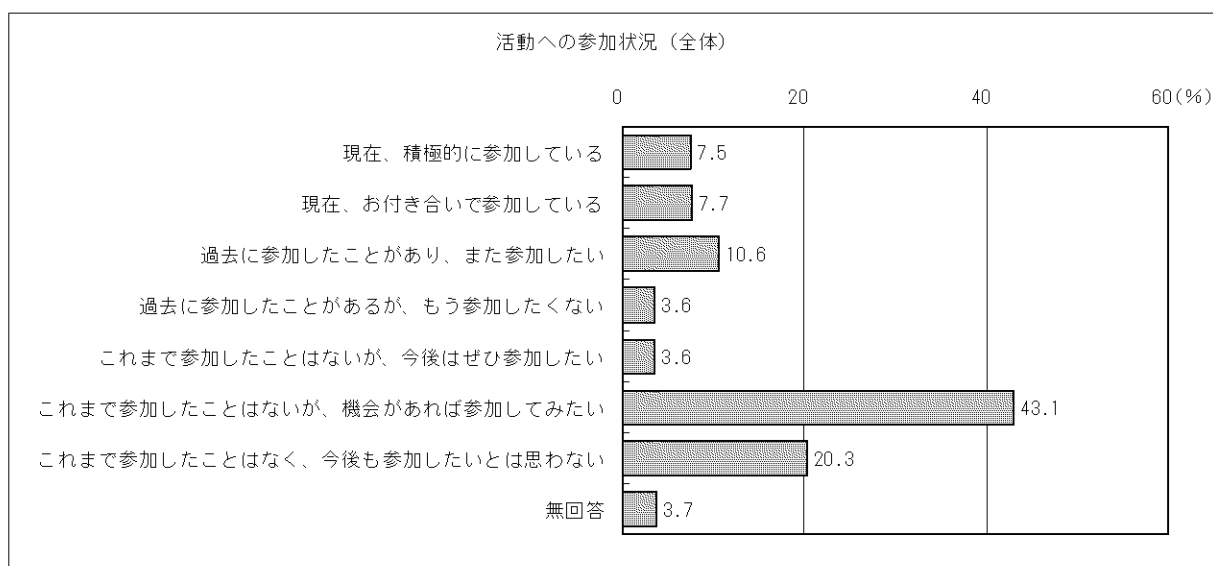
8. 地域の活動についての質問

(1) 活動への参加状況

問3-1 近年、NPO（民間非営利団体）と呼ばれる、営利を目的としないボランティア団体や市民団体の活動が盛んになっていますが、あなたは、NPOやボランティア、地域の活動などに参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。（回答は単一選択式）

○全体

(集計資料 p.128～129)

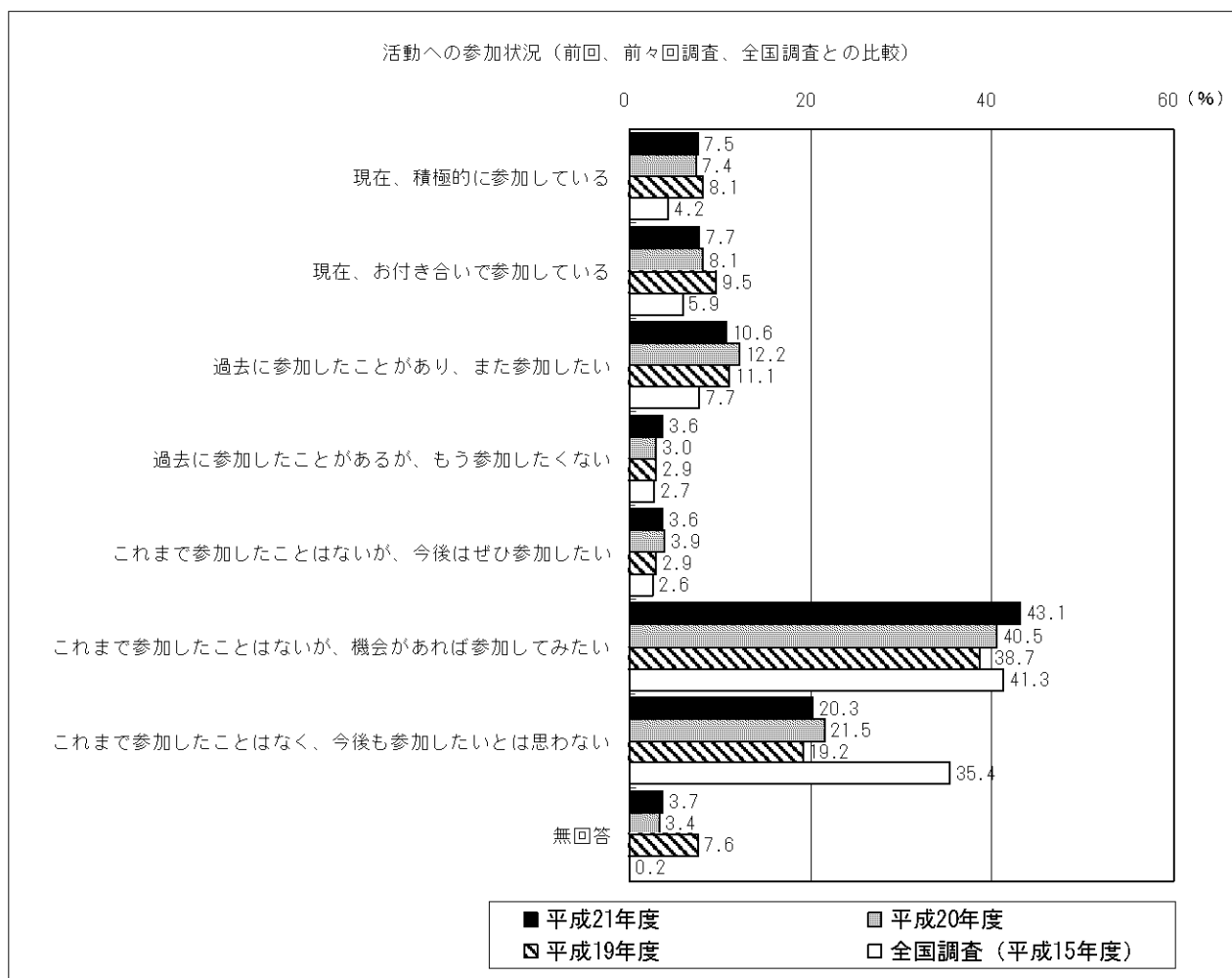


平成 21 年度

NPOやボランティア、地域の活動への参加状況や今後の意向については、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」が43.1%と最も多く、これに「過去に参加したことがあります、また参加したい」（10.6%）、「これまで参加したことはないが、今後はぜひ参加したい」（3.6%）を合わせた“活動への参加意欲を持つ人”は57.3%を占めている。

また、「現在、積極的に参加している」（7.5%）、「現在、お付き合いで参加している」（7.7%）を合わせた“現在、活動に参加している人”は15.2%となっている。

○前回、前々回調査及び全国調査との比較

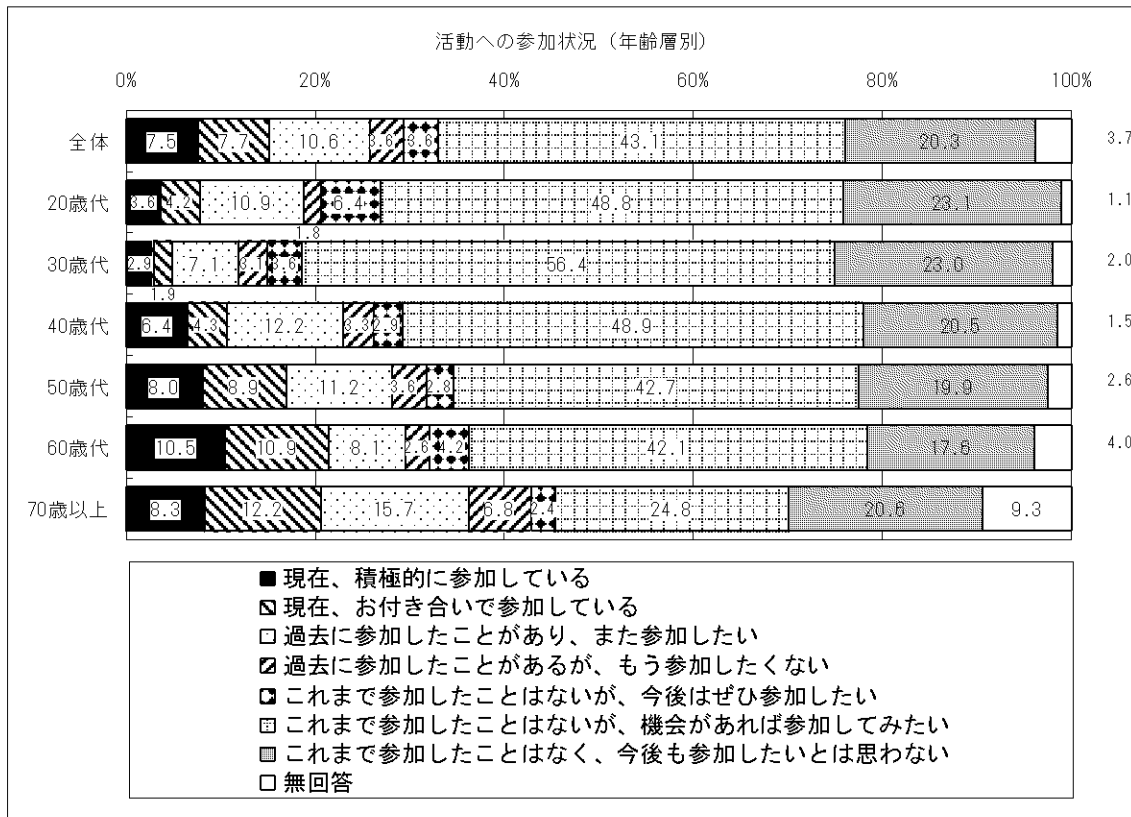


20年度と比較すると、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」は増加している。（20年度40.5%、21年度43.1%）

また、15年度に全国段階で実施された調査（内閣府「平成15年度国民生活選好度調査」）と比較すると、“現在、活動に参加している人”（三重県15.2%、全国10.1%）、“活動への参加意欲を持つ人”（三重県57.3%、全国51.6%）ともに5ポイントほど上回っている。また、「これまで参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」と答えた人は、全国では35.4%を占めているのに対し、三重県では20.3%にとどまっている。

○年齢層別

(集計資料 p.128～129)



年齢層別でみると、「現在、活動に参加している人^{※1}」は60歳以上で2割を占め、年齢が下がるに従って少なくなる傾向にある。また、「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」は30歳代（56.4%）では5割を超えている。

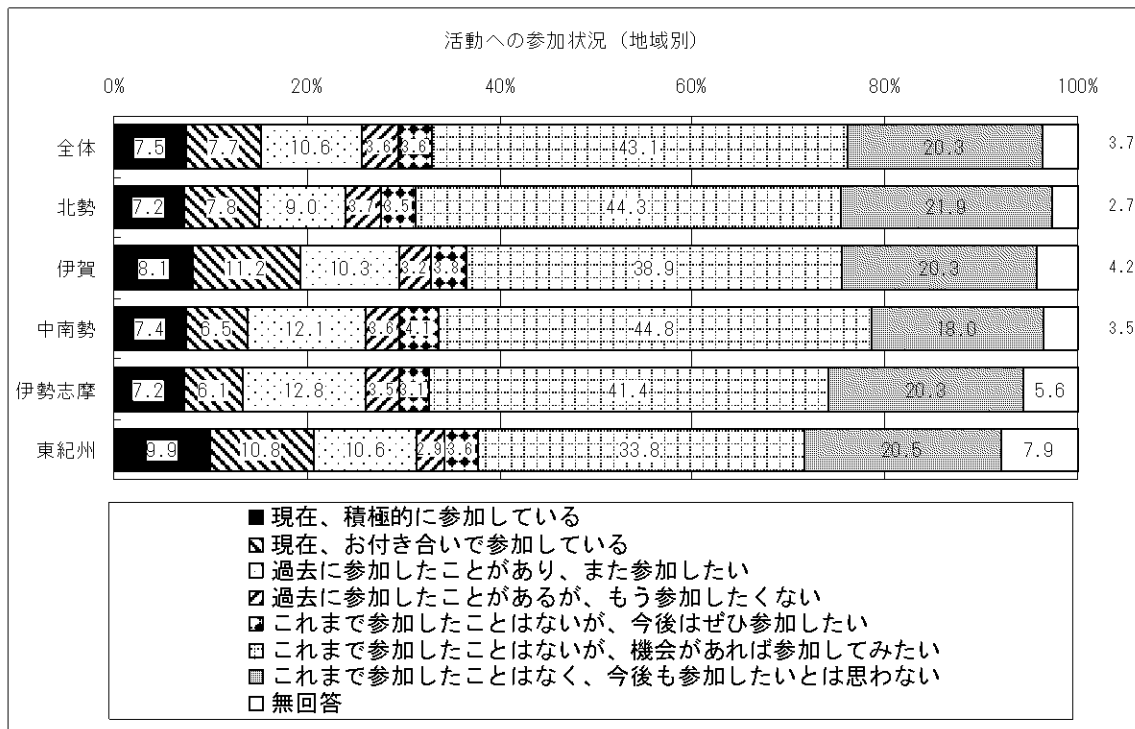
一方、「活動への参加意欲を持つ人^{※2}」は、年齢が下がるにつれて多くなる傾向にある。

※1 「現在、積極的に参加している」「現在、お付き合いで参加している」の計

※2 「過去に参加したことがあり、また参加したい」「これまで参加したことはないが、今後はぜひ参加してみたい」「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」の計

○地域別

(集計資料 p.128～129)



地域別でみると、“現在、活動に参加している人^{※1}”は東紀州地域（20.7%）が最も多く、伊賀地域（19.3%）とともに約2割となっている。続いて北勢地域（15.0%）、中南勢地域（13.9%）、伊勢志摩地域（13.3%）の順となっている。

また、“活動への参加意欲を持つ人^{※2}”は中南勢地域（61.0%）で最も多く、その後も北勢地域（56.8%）、伊勢志摩地域（57.3%）は6割弱、伊賀地域（53.0%）、東紀州地域（48.0%）は約5割となっている。

※1 「現在、積極的に参加している」「現在、お付き合いで参加している」の計

※2 「過去に参加したことがあり、また参加したい」「これまで参加したことはないが、今後はぜひ参加してみたい」「これまで参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」の計

(2) 参加している（した）活動

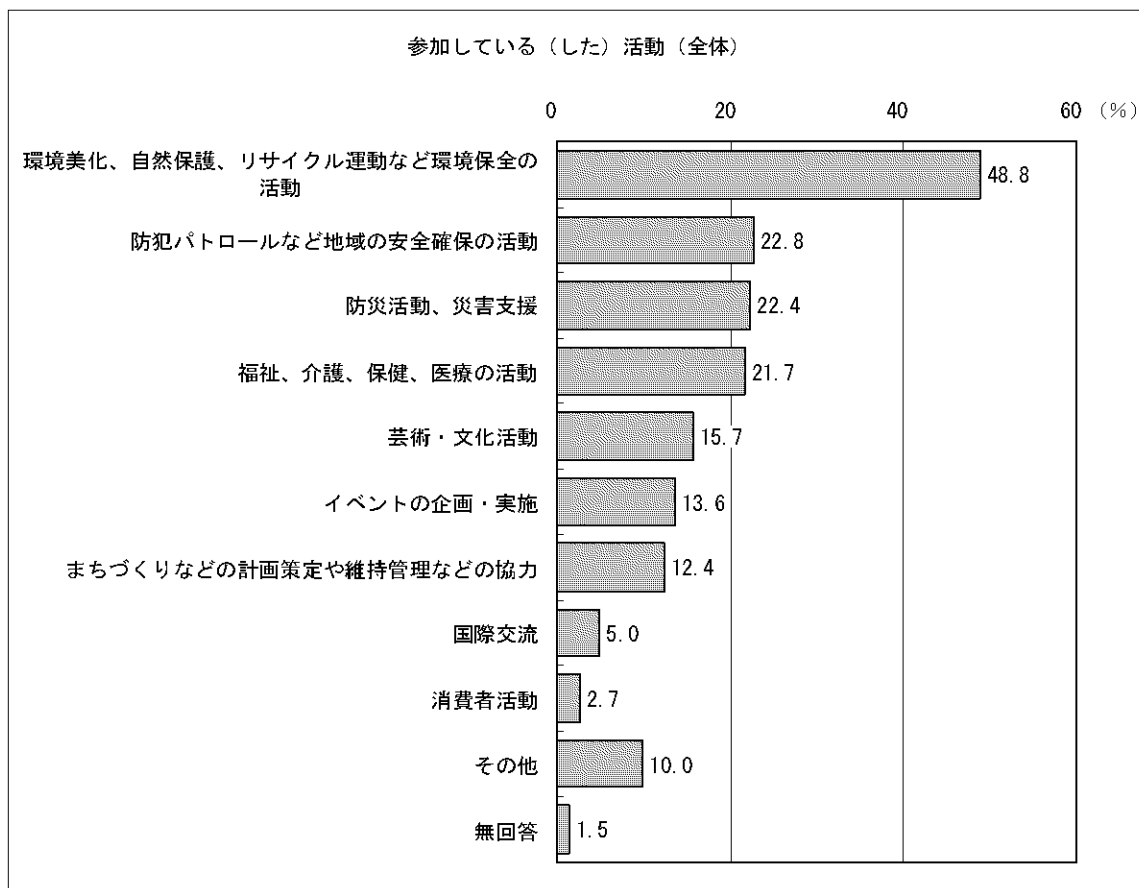
【問3-1で、1～4に○をつけた方だけにおうかがいします】

問3-2 どのような活動に参加されていますか。あるいは、参加されましたか。

(回答は複数選択式)

○全体

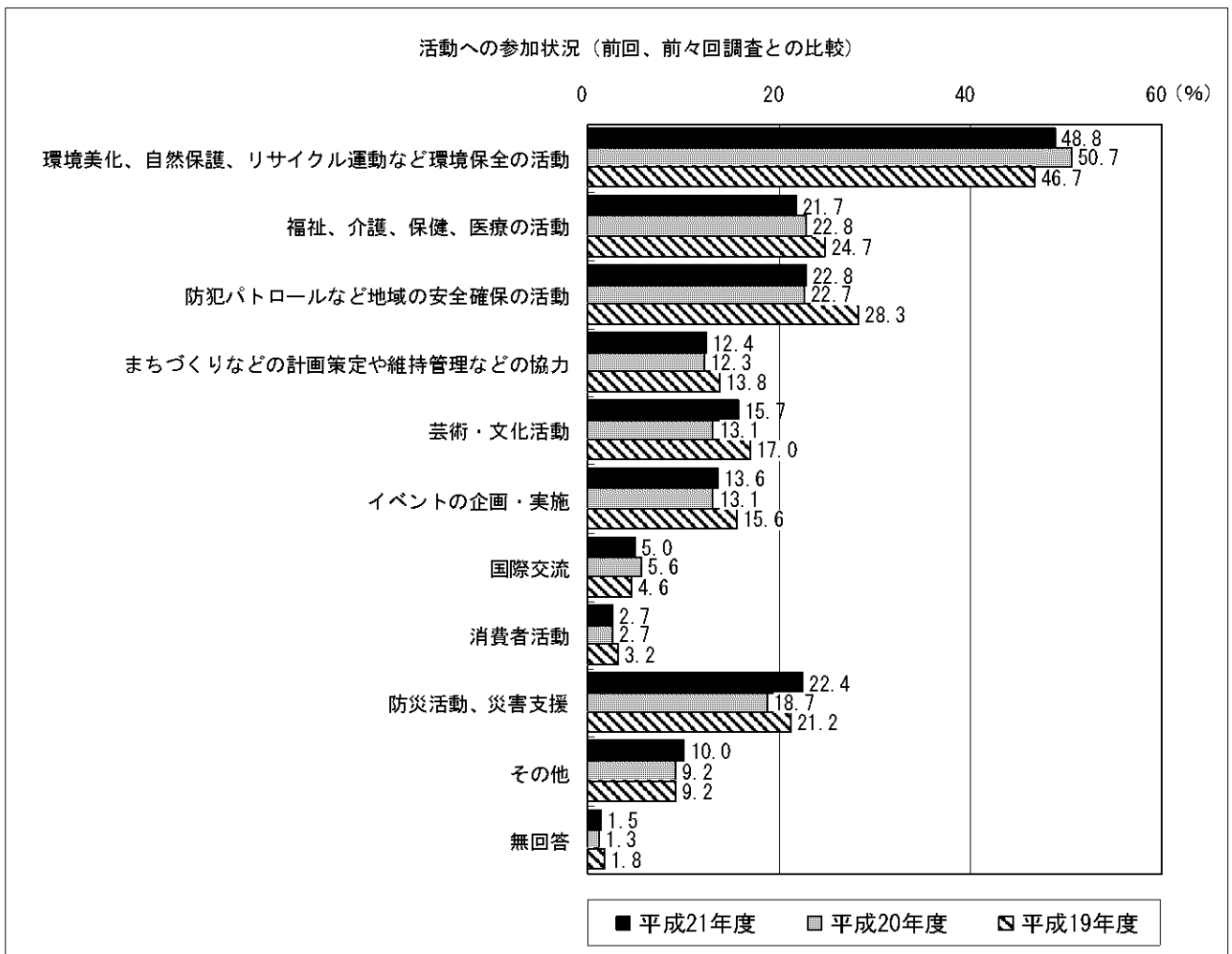
(集計資料 p.130～131)



平成21年度

参加している、または参加した活動については、「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」(48.8%)が他の項目を26ポイント以上離して最も多くなっている。次いで「防犯パトロールなど地域の安全確保の活動」が22.8%、「防災活動、災害支援」が22.4%、「福祉、介護、保健、医療の活動」が21.7%となっている。

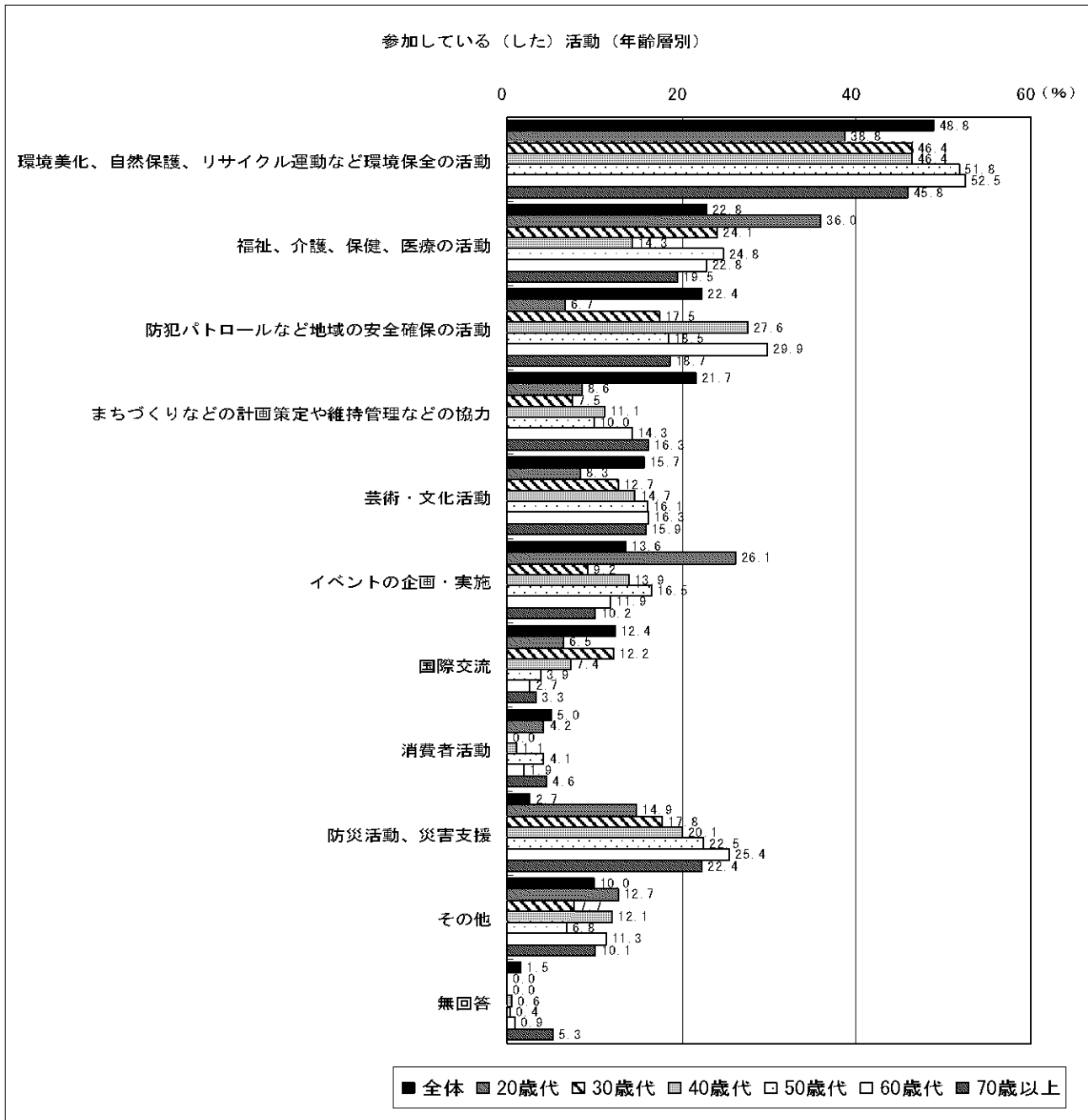
○前回、前々回調査との比較



19年度、20年度と比較すると、上位5項目の内容に変化はない。最も多い「環境美化、自然保護、リサイクル運動などの環境保全の活動」は横ばいで推移しているが、「福祉、介護、保健、医療の活動」では年々参加者が減少している。一方、「防災活動、災害支援」は20年度から3.7ポイント増加している。

○年齢層別

(集計資料 p.130～131)

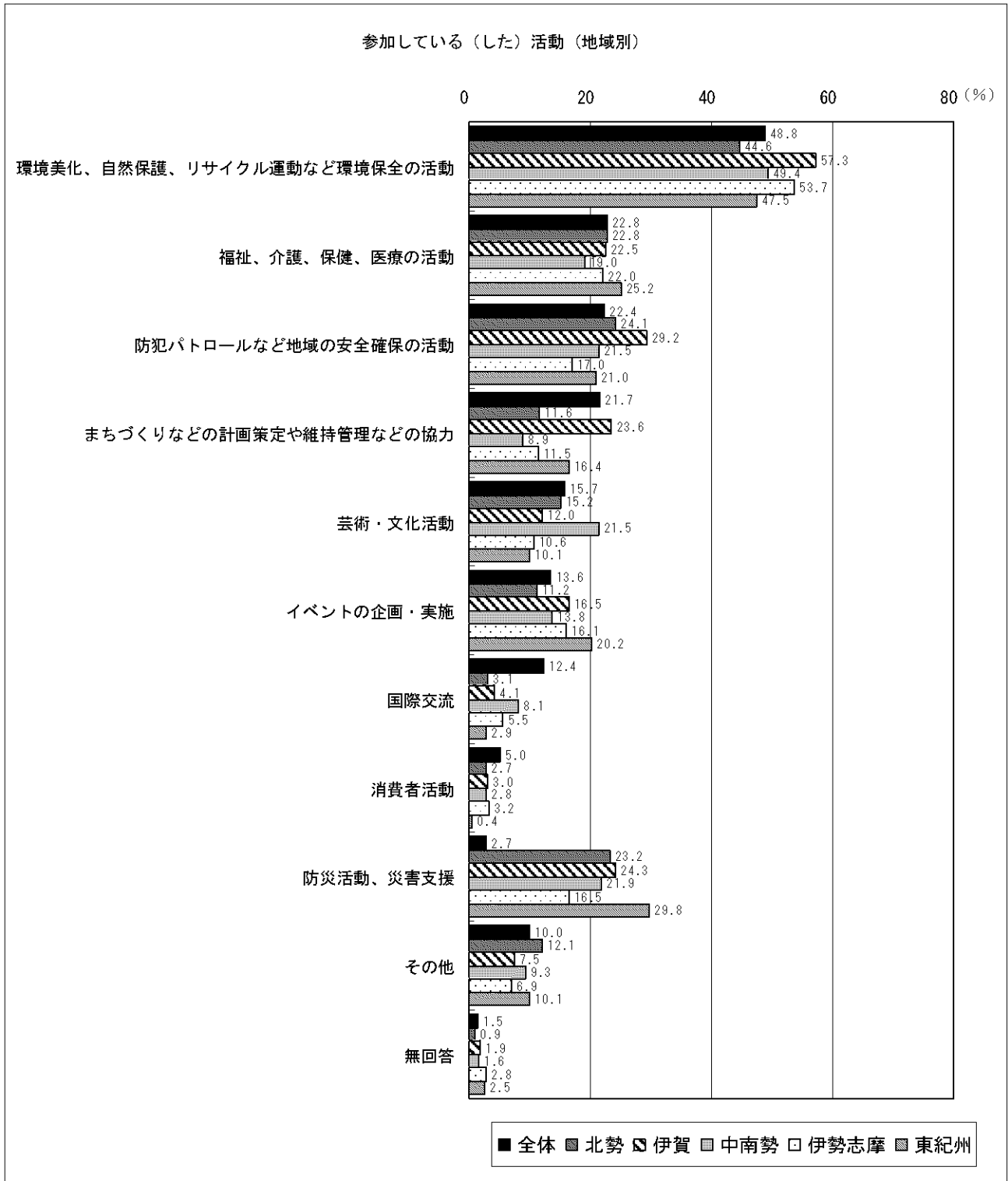


年齢層別でみると、全ての年齢層で「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」が最も多くなっている。「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」「防災活動、災害支援」「まちづくりなどの計画策定や維持管理などの協力」「芸術・文化活動」は、年齢が上がるに従って多くなる傾向にある。20歳代は「福祉、介護、保健、医療の活動」「イベントの企画・実施」、30歳代は「国際交流」、40歳代、60歳代は「防犯パトロールなど地域の安全確保の活動」で他の年齢層に比べて多くなっている。

一方、20歳代は「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」「防犯パトロールなどの地域の安全確保の活動」「防災活動、災害支援」、30歳代、50歳代、70歳以上は「防犯パトロールなどの地域の安全確保の活動」、40歳代は「福祉、介護、保健、医療の活動」で他の年齢層よりも少なくなっている。

○地域別

(集計資料 p.130～131)



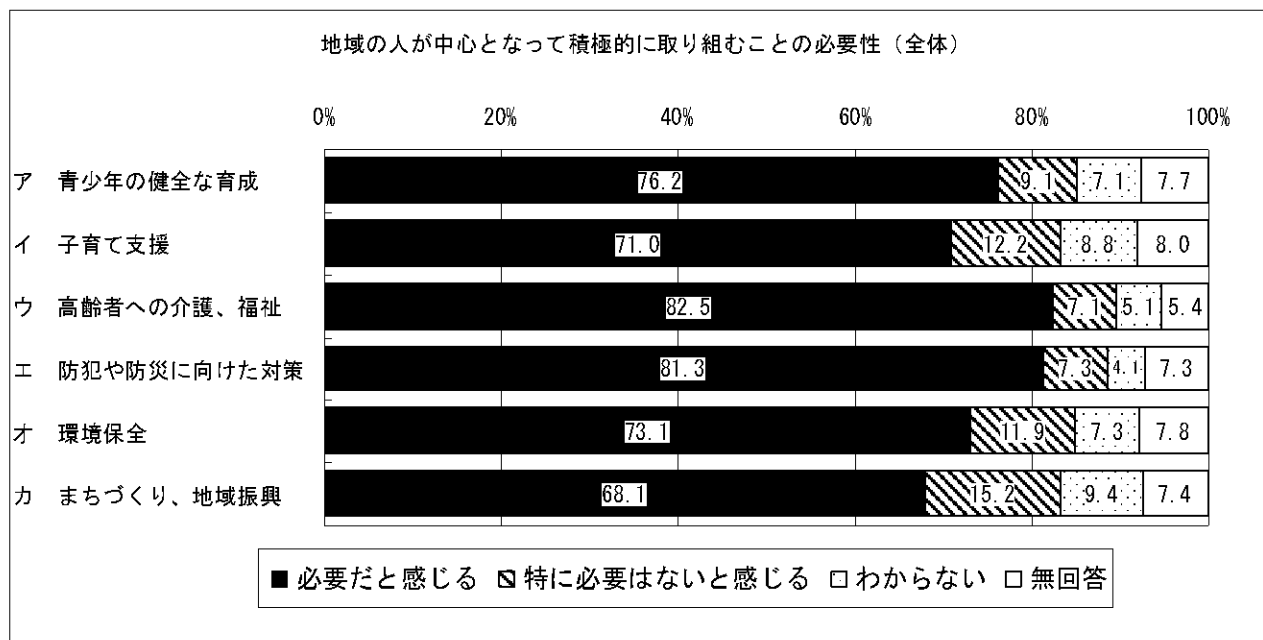
地域別でみると、全ての地域で「環境美化、自然保護、リサイクル運動など環境保全の活動」が最も多い。伊賀地域は「まちづくりなどの計画策定や維持管理などの協力」で多く、中南勢地域は「芸術・文化活動」、東紀州地域は「イベント企画・実施」「防災活動、災害支援」で他の地域と比べて多くなっている。

(3) 地域の人を中心となって積極的に取り組むことの必要性

問3-3 あなたは、次のア～カの項目について、あなたの住んでいる地域の人を中心となって積極的に取り組むことが必要だと感じますか。(回答は各単一選択式)

○全体

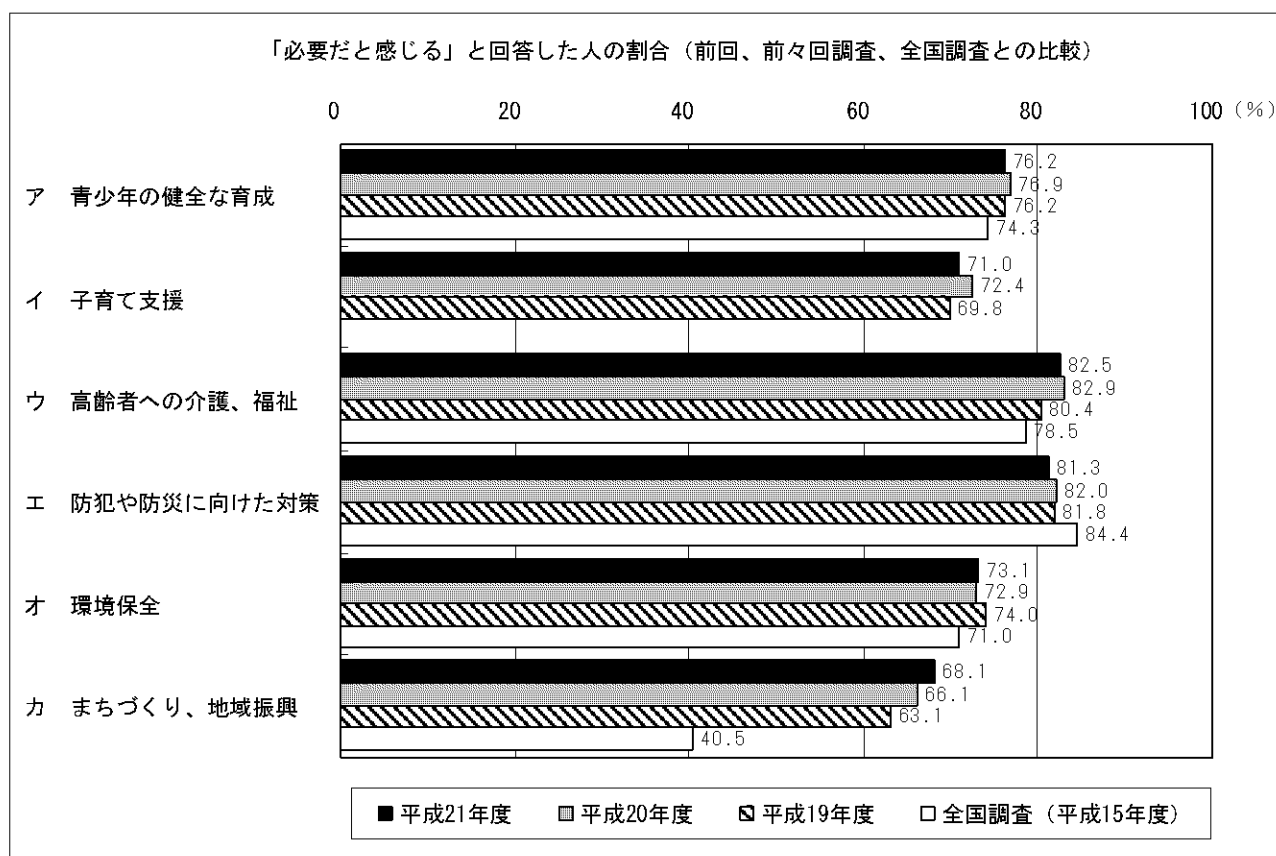
(集計資料 p.132～137)



平成21年度

地域の人を中心となって積極的に取り組むことが「必要だと感じる」と答えた人は、「カ まちづくり、地域振興」で68.1%となっているほかはいずれも7割を超えており、「ウ 高齢者への介護、福祉」(82.5%)、「エ 防犯や防災に向けた対策」(81.3%)は8割を超えている。

○前回、前々回調査及び全国調査との比較



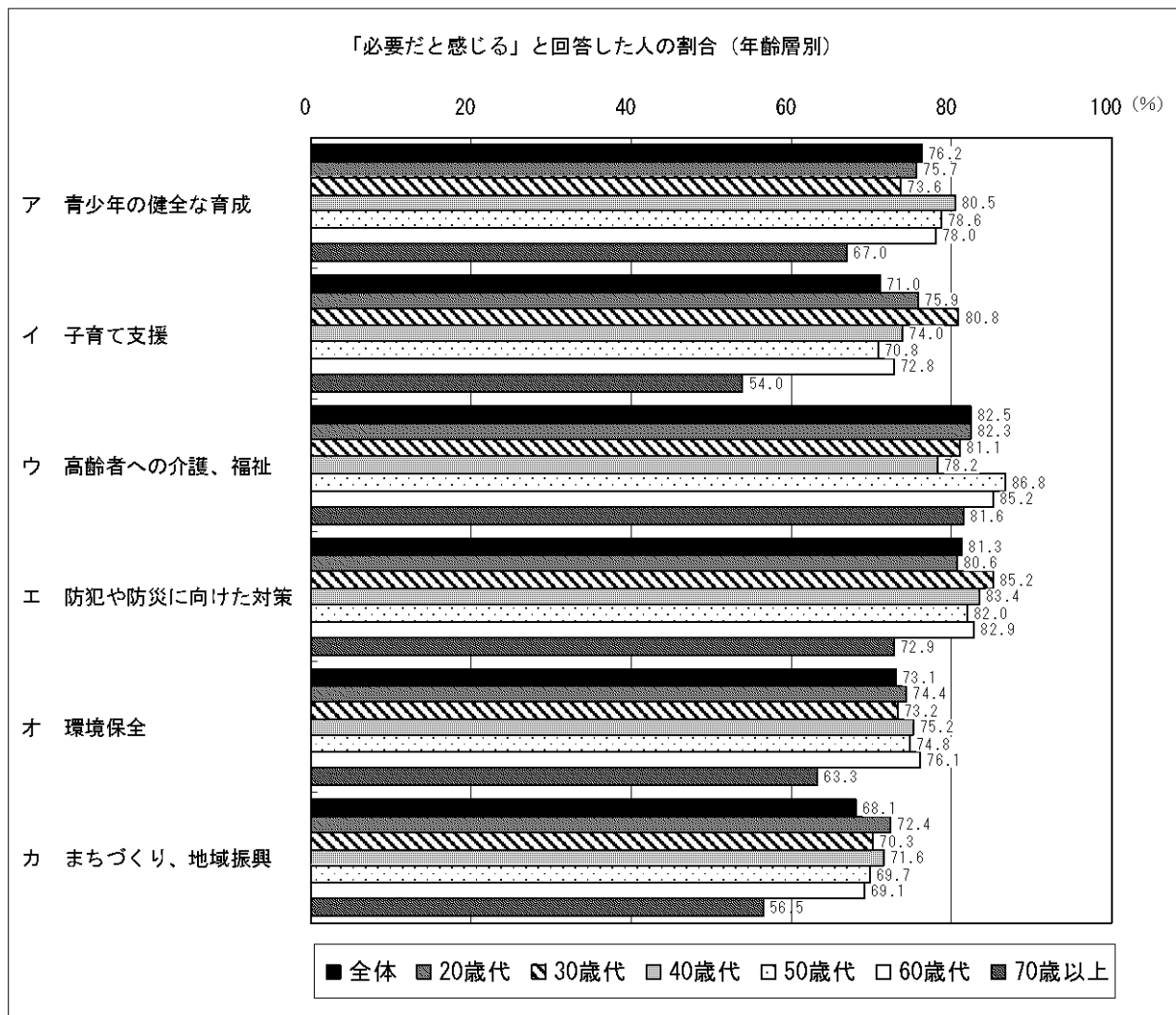
※全国調査では「イ 子育て支援」に該当するものがないので、ここでは省略する。

「必要だと感じる」と答えた人の割合を20年度、21年度と比較すると、ほとんどの項目で横ばいとなり大きな変化はない。19年度から3年間で比較すると、「カ まちづくり、地域振興」は年々微増している。

また、15年度に全国段階で実施された調査（内閣府「平成15年度国民生活選好度調査」）と比較すると、「カ まちづくり、地域振興」は全国に比べるとかなり高く推移している。「エ 防犯や防災に向けた対策」を必要だと感じている人は、全国調査より低くなっている。

○年齢層別

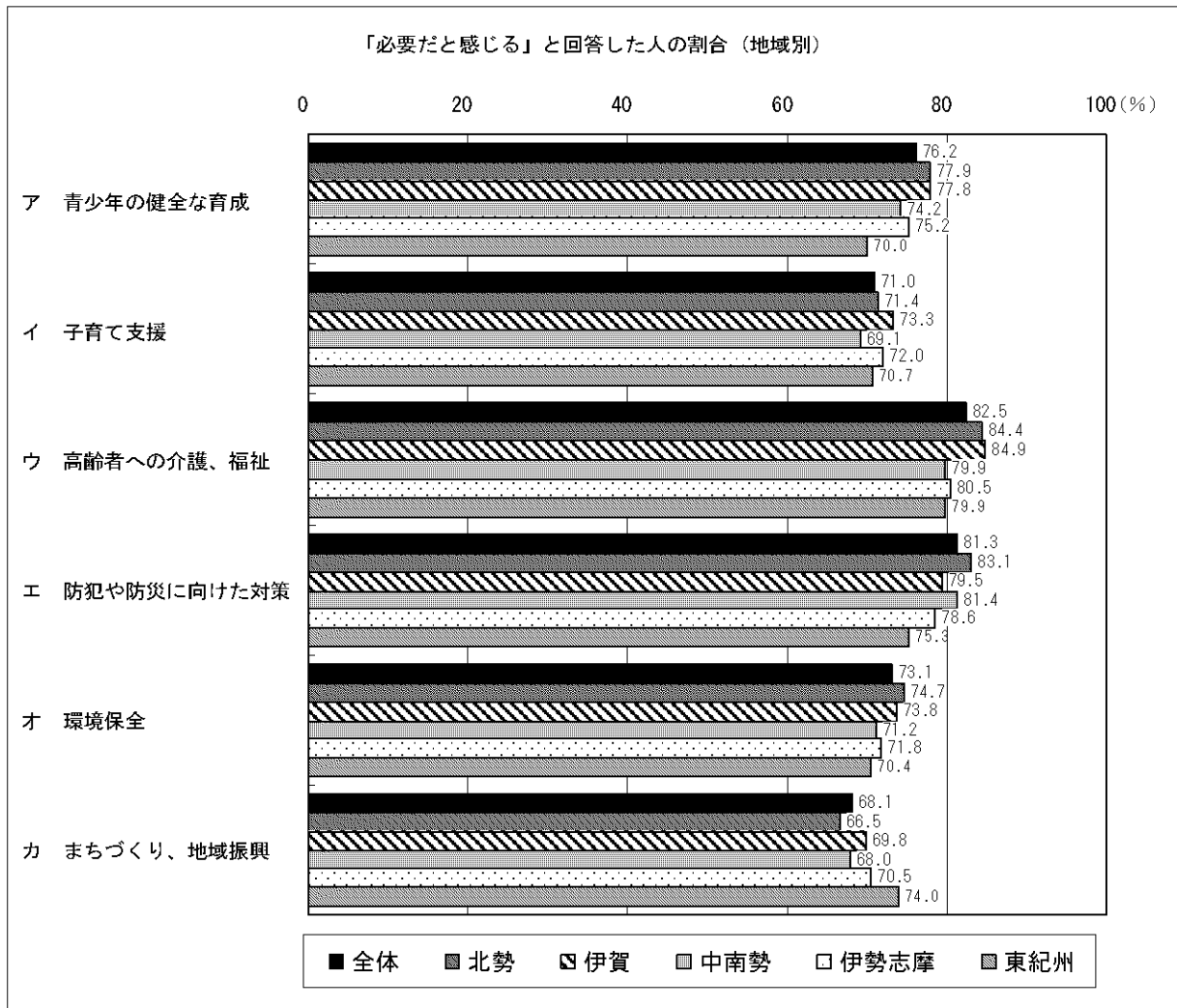
(集計資料 p.132～137)



「必要だと感じる」と答えた人の割合を年齢層別で見ると、「イ 子育て支援」は30歳代が多く、「ウ 高齢者への介護、福祉」は50～60歳代で多くなっている。70歳以上は、「ウ 高齢者への介護、福祉」を除く項目では、「必要だと感じる」の回答が他の年齢層に比べてかなり少なくなっている。

○地域別

(集計資料 p.132～137)



「必要だと感じる」と答えた人の割合を地域別で見ると、「ウ 高齢者への介護、福祉」は北勢地域、伊賀地域で多く、一方、東紀州地域では「ア 青少年の健全な育成」「エ 防犯や防災に向けた対策」が少なくなっている。